

私たち千代田図書館コンシェルジュは、図書館の総合案内と千代田区の街案内をしています。

街案内では、近隣の新刊書店と古書店、文化施設、イベントやおすすめスポットなど、地域に関する情報を幅広くご案内しています。また、私たちが自ら足を運んで取材した情報の発信もしています。

ここでは、私たちがいままでに見たり聞いたり調べたりした千代田区にゆかりのある情報から、皆さまのお役に立ちそうなことをご紹介します。これからも千代田図書館で皆さまのお越しをお待ちしています！

千代田図書館コンシェルジュ（対応時間 平日 10:00~20:00 土曜 10:00~19:00 日曜・祝日 10:00~17:00）

特集：はじめての“茶の湯”



日本の伝統芸能のひとつ“茶の湯”は、敷居が高いイメージもありますが、「一期一会」という言葉をはじめ、その精神は日常生活にも結びついています。現代では「茶道」は'Japanese Tea Ceremony'や'the Way of Tea'などと英訳され、海外の人々にも注目されています。そこで今回は茶道、茶の湯への入り口となるような情報をお届けします。



“茶の湯”について知る

鎌倉時代に禅宗とともに中国から日本へ伝来した茶を飲む風習は、禅宗の影響を受けつつ日本独自の喫茶の形態“茶の湯”として普及していきました。室町時代になり、千利休によって茶道の原型「わび茶」が整って以来、茶道や茶の湯などと呼ばれる伝統文化として現在へ受け継がれています。

■茶道や茶の湯の歴史を知る

- ・『茶の湯の文化史』谷端昭夫/吉川弘文館〈資料 ID: 130547995〉
- ・『喫茶の歴史』木村栄美/淡交社〈資料 ID: 1000570877〉
- ・『戦国茶の湯倶楽部』中村修也/大修館書店〈資料 ID: 1000186153〉
- ・『知って得する茶道のいろは』筒井紘一/淡交社「資料 ID: 1000317139」>



■茶会の作法を知る

- ・『はじめての茶の湯』北見宗幸/成美堂出版〈資料 ID: 105804652〉
- ・『はじめて茶会に招かれました』淡交社編集局/淡交社〈資料 ID: 1000510345〉
- ・『茶道の稽古場 役立つ100の知恵』黒田宗光/淡交社〈資料 ID: 1000260909〉

■抹茶を知る

- ・『お抹茶のすべて』桑原秀樹/誠文堂新光社〈資料 ID: 1000675973〉



英語の対訳がある資料で知る

分かりやすい日本語で書かれた英語訳付きの資料は、茶の湯初心者にもおすすめです。テーブルと椅子を用いて茶を点てる椅子点前「立礼」^{てまる りゅうれい}は、外国人客をもてなすため裏千家によって考案されました。

- ・『英語 DE 茶の湯』保科眞智子/淡交社〈資料 ID: 1200285383〉
- ・『ランディー・チャネル宗榮のバイリンガル茶の湯 BOOK』ランディー・チャネル宗榮/淡交社〈資料 ID: 1000505451〉
- ・『茶のある暮らし』千宗屋/講談社〈資料 ID: 1102267133〉



茶の湯にまつわるスポットを巡る

千代田区にある茶の湯ゆかりの地を巡ってみませんか？

■「お茶の水」石碑 JR 御茶ノ水駅お茶の水橋口 お茶の水交番隣

石碑には「お茶の水」という呼び名の由来が刻まれている。江戸幕府の二代將軍徳川秀忠^{ひでただ}が、鷹狩の帰りに神田川岸にあった高林寺^{こうりんじ}境内より湧き出した水を用いたお茶を飲み大変美味しかったことから、高林寺の水が將軍家の茶の湯に用いられるようになり、後にこの辺りを「お茶の水」と呼ぶようになったとされている。

■皇居東御苑二の丸庭園 千代田区千代田 1

茶道「遠州流」の流祖で、作庭家でもあった小堀遠州^{こぼりえんしゅう}作の庭をルーツとする池泉回遊式庭園。現在の庭は九代將軍家重^{いさしげ}の時代の庭絵図面をもとに昭和 40 年（1965 年）に復元されたもの。

■神田の家 井政 千代田区外神田 2-16 宮本公園内（神田明神となり）

「井政」とは江戸時代から続く材木商遠藤家の屋号。旧店舗兼住宅が移築されている。移築先の宮本公園が茶道の江戸千家発祥の地であることにちなみ茶室が設えられた。建物の一部はカフェスペースとして開放されている。千代田区指定有形文化財で、指定名称は「遠藤家旧店舗・住宅主屋」。



茶道具を鑑賞する

明治時代より前は、「茶室」が茶道具などの美術品を鑑賞する代表的な空間だったそうです。茶道具のコレクションがある美術館を紹介します。

■出光美術館 千代田区丸の内 3-1-1 帝劇ビル 9 階（出光専用エレベーター 9 階）

日本の書画、中国・日本の陶磁器など東洋古美術を中心とする「出光コレクション」のほか、茶道具も所蔵。年 6 回の展覧会では、テーマに沿って所蔵品を紹介している。



■三井記念美術館 中央区日本橋室町 2-1-1 三井本館 7 階

コレクションの中心となる茶道具には国宝「志野茶碗^{うのはながき} 卯花壺」がある。館内には茶人としても知られる織田有楽斎^{うらくさい}が京都に建てた茶室「如庵^{じょあん}」が再現されている。

👤 <豆知識> なぜお茶をいただくことを「一服」と言うの？

禅宗の僧侶・栄西^{えいせい}（1141～1215 年）は、茶の効用や実用性を『喫茶養生記』に著し、「茶は養生の仙薬なり」と記しています。薬と同じように茶の効用を期待して飲まれてきたため、「一服」と言うようになったようです。当時の茶の効用を伝えるエピソードが歴史書『吾妻鏡』に記されています。健保 2 年（1214 年）、鎌倉幕府の將軍・源実朝は二日酔いで気分がすぐれず、僧侶に祈祷をしてもらうため栄西を呼び寄せました。栄西はそこで“祈祷よりも効く薬がある”とあって実朝に一盃^{いっぱい}の茶を進上し、茶を飲んだ実朝は大いに喜んだそうです。栄西は『喫茶養生記』を実朝へ献上し、その後、喫茶の習慣は普及していきました。

<参考文献> 『山上宗二記入門』 神津朝夫/角川学芸出版 <資料 ID : 1100039427>



コンシェルジュのおすすめ！ お茶と一緒にいかが？おすすめのと菓子

お茶と一緒に頂くお茶菓子も楽しみなものです。千代田図書館コンシェルジュ作成の「コンシェルジュのおすすめ 手土産」ファイルから、お茶によく合う和菓子をご紹介します。

御菓子処 さゝま（千代田区神田神保町 1-23）… 通年商品の「松葉最中」や月ごとの生和菓子は上品な味わい。

江戸銘菓 一元屋^{いちげんや}（千代田区麹町 1-6-6）… こだわりの「特製ぎんづば」と 2 種類の最中は手土産にも人気。

神田 橘昌文銭堂^{きつしょうぶんぜんどう}（千代田区神田神保町 1-13-2）… 都観光土産認定「銭形平次最中」や季節の和菓子を扱う。

※コンシェルジュブースでは飲食店のおすすめファイルを「ランチ」「カフェ」など 4 種類ご用意しています。